



第3章

多摩・島しょ地域における
スポーツ活用の現状と課題

3-1. 自治体アンケート調査・ヒアリング調査

(1) 自治体アンケート調査

① 調査概要

<目的>

スポーツコミッションの必要性などを探るための地域情報の把握

<調査項目>

- ・各市町村のスポーツへの取組
- ・2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組
- ・スポーツ祭東京2013の開催効果
- ・スポーツ資源(盛んなスポーツ、有名チーム・選手、スポーツ施設、自然・地形等のスポーツ環境)
- ・まちづくりの課題
- ・スポーツの効用を活かしたまちづくり・地域活性化の目的や求める効果
- ・スポーツコミッション(機能・組織)への関心度・必要性

<分析視点>

- ・地域的な特性

<調査対象>

- ・東京都多摩・島しょ地域39市町村(回収率100%)

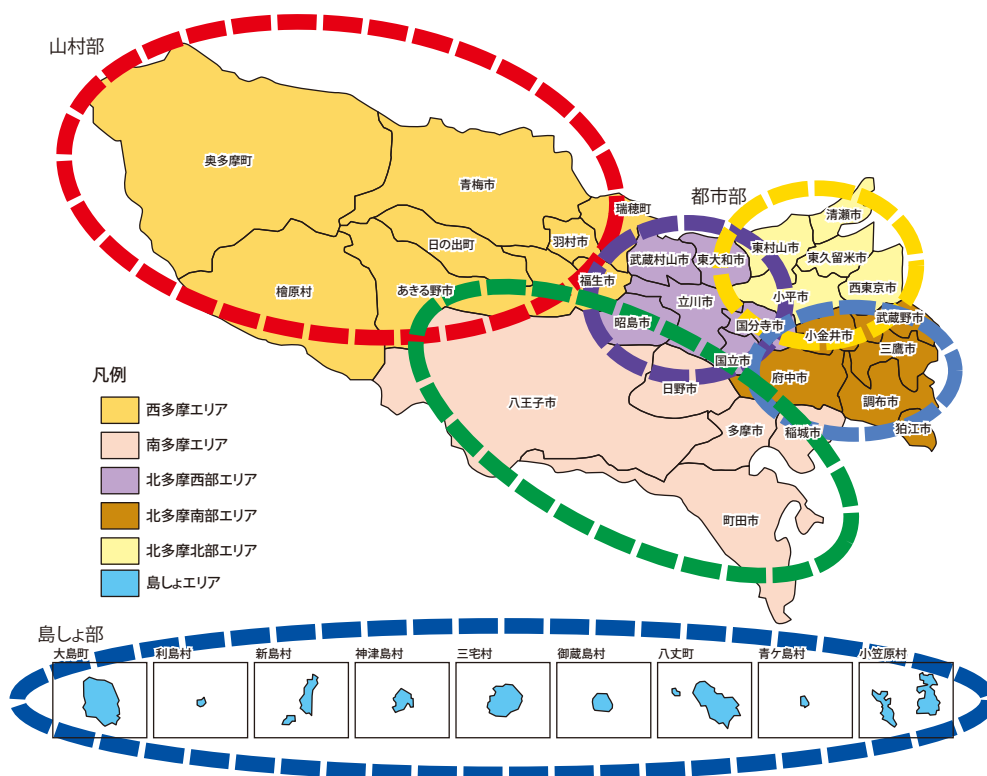
<実施方法>

- ・Eメールによる配信、回収

<実施時期>

- ・平成28年7月下旬～8月下旬

図表3-1 地域区分図



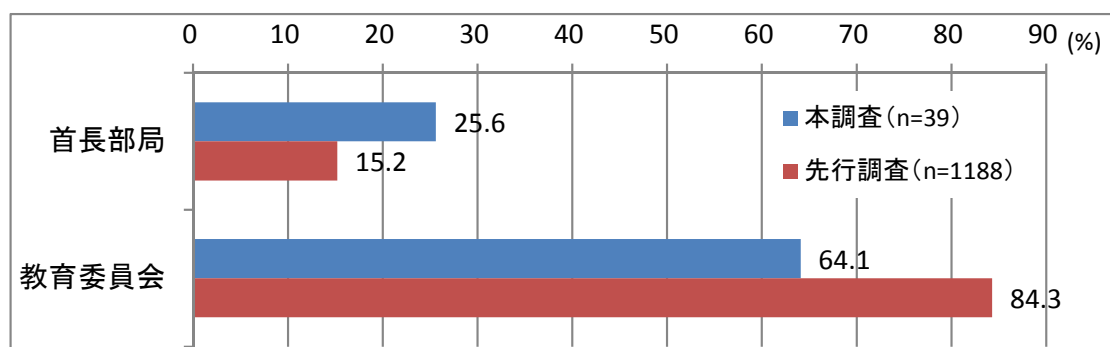
②集計結果(多摩・島しょ地域39自治体アンケート調査の集計)

<スポーツ担当部署>

多摩・島しょ地域自治体の有効回答の6割強は、教育委員会にスポーツ担当部局が置かれている。

笹川スポーツ財団の「スポーツ振興に関する全自治体調査2015」によれば、スポーツ担当部署が教育委員会から首長部局へ移管してきており、全国的には市町村で前回の2010年度調査8.3%から15.2%と増加している。多摩・島しょ地域では25自治体64.1%が教育委員会、10自治体25.6%が首長部局にスポーツ担当部署を置いており、全国的な傾向と比べると比較的移管が進んでいる。

図表3-2 市区町村のスポーツ担当部署



※無回答は非表示

<スポーツの効用を活かした取組>

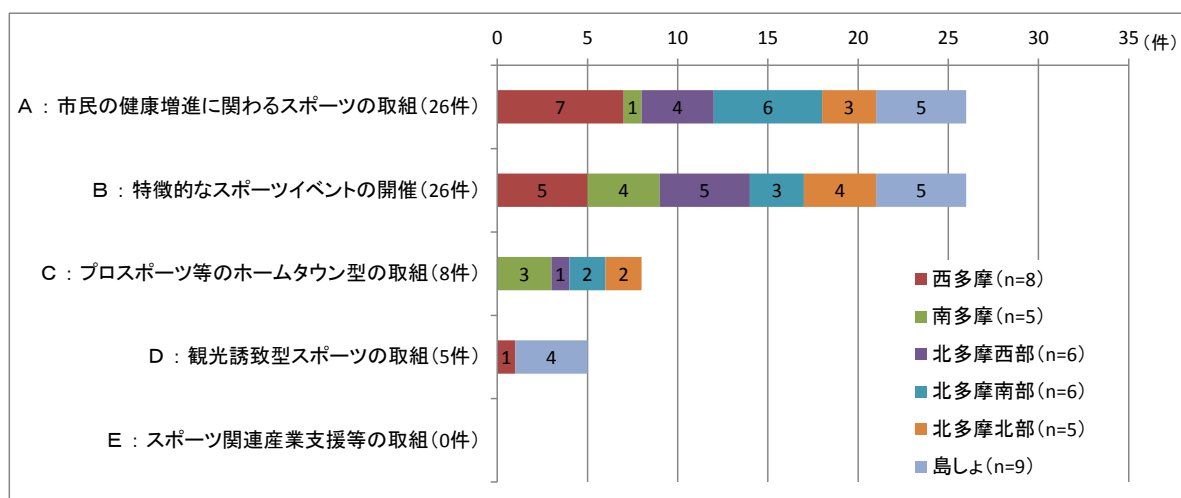
多摩・島しょ地域で取り組まれているスポーツの効用を活かしたまちづくり・地域活性化の取組は図表3-3のとおりである。

「A：市民の健康増進(26件)」、「B：特徴的なスポーツイベントの開催(26件)」は6割を超える自治体で取り組まれている。

「C：ホームタウン型の取組」は8件と少ないが南多摩地域3件、北多摩南部・北部が各2件、北多摩西部1件と地理的に多摩地域の東側に集中している。

「D：観光誘客型の取組」は5件と少ないがそのうち4件が島しょ部に集中している。

図表3-3 スポーツの効用を活かした取組 (M.A.)



図表3-3で示した各自治体の具体的な取組が図表3-4である。ただし、「A：市民の健康増進に関わるスポーツの取組」は、これまで一般に推進されてきたような分野が多く見られることから除いている。「E：スポーツ関連産業支援等の取組」は回答がなかったことから除いている。

図表3-4 具体的な取組名称 (F.A.)

地域	タイプ	市町村	取組名称
西多摩	B、D	青梅市	青梅マラソン大会
	B	福生市	ラン&ウォークin福生
	B	羽村市	フィールドゴルフ大会
	B	羽村市	ふれあい綱引き大会
	B	日の出町	日の出町元旦マラソン
	B	日の出町	綱引き・ゲートボール大会
	B	檜原村	東京ヒルクライム
南多摩	B	八王子市	全関東八王子夢街道駅伝競走大会
	B	八王子市	TOKYO八峰マウンテントレイル
	C	町田市	FC町田ゼルビア
	C	町田市	ASVベスカドーラ町田
	B	日野市	ロープジャンプ小学生大会
	C	日野市	東京ベルディサンクスマッチ
	B	多摩市	多摩ロードレース大会
	B	稲城市	ファミリースポーツフェスタ
C	稲城市	東京ベルディサンクスマッチ	
北多摩西部	B	立川市	立川シティハーフマラソン
	C	立川市	東京ベルディサンクスマッチ
	B	昭島市	昭島市チャレンジデー
	B	国立市	LINKくにたち(マラソン)
	B	東大和市	ロードレース大会
	B	東大和市	多摩湖駅伝大会
	B	武蔵村山市	武蔵村山市少年・古希野球チーム親善大会
北多摩南部	B	三鷹市	三鷹市民駅伝大会
	B	三鷹市	みたかスポーツフェスティバル
	B	府中市	ボールふれあいフェスタ
	C	府中市	東芝プレイブルーバス・サントリーサンゴリアス
	C	調布市	FC東京
	B	小金井市	小金井市こども国際交流フットサル大会
北多摩北部	B	小平市	市民スポーツまつり
	C	小平市	FC東京
	B	東村山市	多摩六都フェアスポーツ大会
	C	西東京市	FC東京
	B	清瀬市	ティーボール大会
	B	西東京市	多摩六都フェアスポーツ大会
島しょ	B	大島町	伊豆大島トライアスロン大会
	D	大島町	ジオパークを楽しもう(大島)
	B	新島村	新島トライアスロン大会
	B	新島村	新島アクアスロン大会
	B	新島村	式根島マラソン大会
	B	新島村	新島オープンウォータースイミング大会
	B	新島村	新島東京都知事杯サーフィン大会
	B、D	神津島村	神津島アクアスロン大会
	B	神津島村	村民運動会
	D	八丈町	スポーツ合宿誘致(八丈島)
	D	小笠原村	OgasawaRun(オガサワラン)

B：特徴的スポーツイベント型の取組

C：プロスポーツ等ホームタウン型の取組

D：観光誘致型の取組

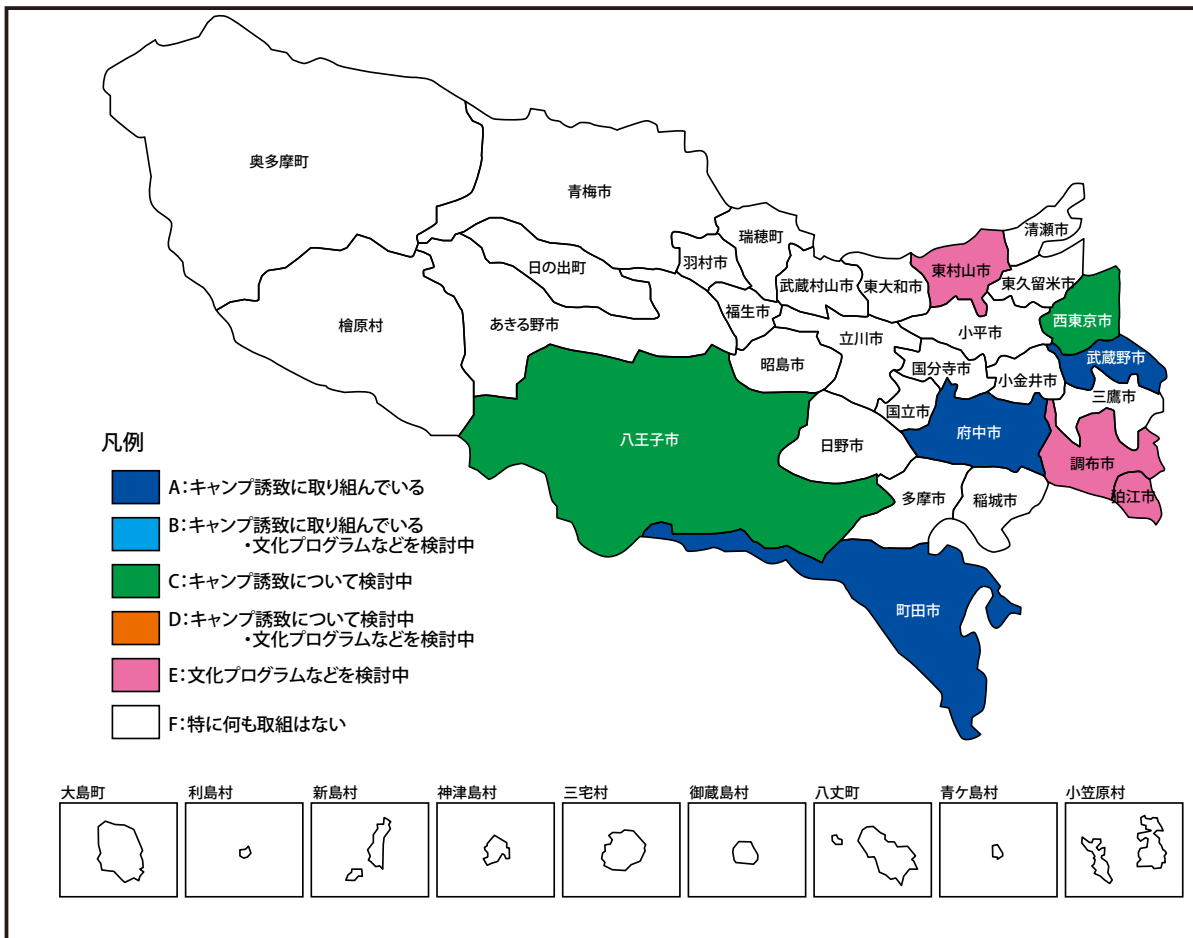
<2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組>

◇2019年ラグビーワールドカップ

回答によると、平成28年7月時点の状況は次のとおりである。

- ・ キャンプ誘致に取り組んでいる自治体
武蔵野市、府中市、町田市
- ・ 誘致を検討中としている自治体
八王子市、西東京市
- ・ 文化プログラムなどを検討中としている自治体
調布市、東村山市、狛江市

図表 3-5 2019年ラグビーワールドカップへの取組状況 (M.A. の組合せ分類)

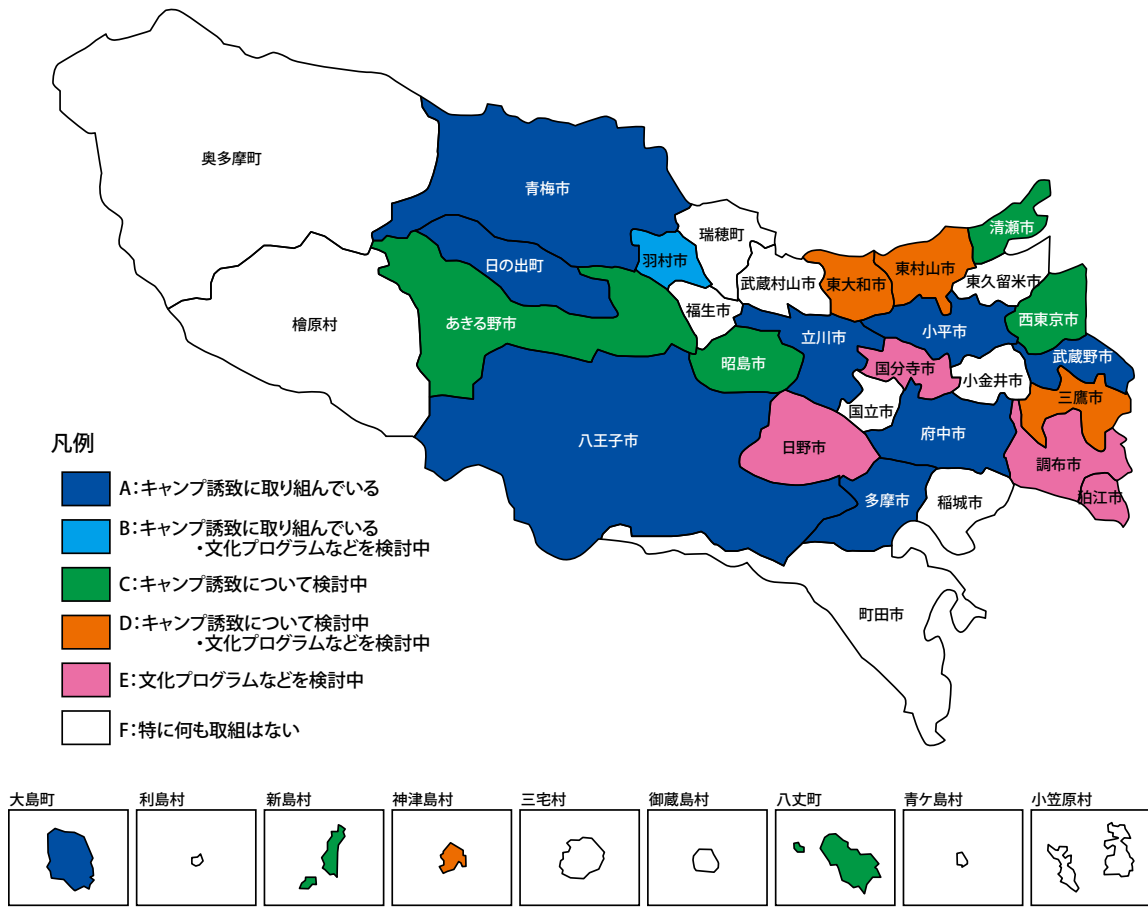


◇2020年東京オリンピック・パラリンピック

回答によると、平成28年7月時点の状況は次のとおりである。

- ・ キャンプ誘致に取り組んでいる自治体
八王子市、立川市、武蔵野市、青梅市、府中市、小平市、多摩市、羽村市、日の出町、大島町
- ・ キャンプ誘致を検討中としている自治体
三鷹市、昭島市、東村山市、東大和市、清瀬市、あきる野市、西東京市、新島村、御蔵島村
- ・ 文化プログラムなどを検討中としている自治体
三鷹市、調布市、日野市、東村山市、国分寺市、狛江市、東大和市、羽村市、神津島村

図表3-6 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組状況（M.A.の組合せ分類）



図表3-7 2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組状況（M.A.）

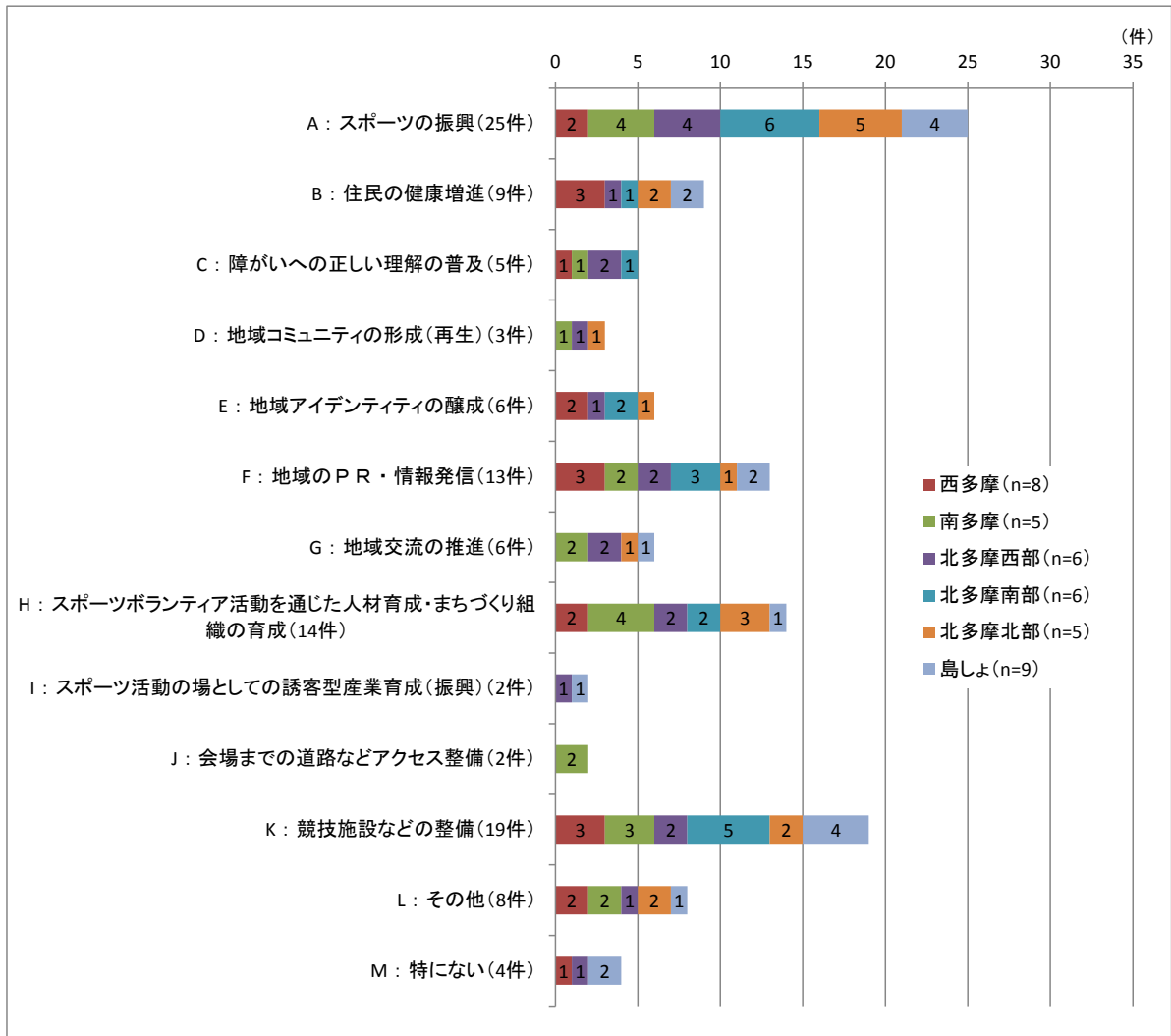
地域		2019年ラグビーワールドカップ	2020年東京オリンピック・パラリンピック	地域	2019年ラグビーワールドカップ	2020年東京オリンピック・パラリンピック
西多摩	青梅市		◎	北多摩南部	武蔵野市	◎
	福生市				三鷹市	○ ●
	羽村市		◎ ●		府中市	◎
	あきる野市		○		調布市	●
	瑞穂町				小金井市	●
	日の出町		◎		狛江市	●
	檜原村				北多摩北部	小平市
	奥多摩町			東村山市		●
	南多摩	八王子市	○	◎		清瀬市
町田市		◎		東久留米市		○ ●
日野市			●	西東京市	○	
多摩市			◎	島しょ	大島町	
稲城市					利島村	
北多摩西部		立川市			◎	新島村
	昭島市		○		神津島村	
	国分寺市		●		三宅村	
	国立市				御蔵島村	
	東大和市		○ ●		八丈町	
	武蔵村山市				青ヶ島村	
					小笠原村	○

◎ キャンプ誘致に取り組んでいる
 ○ キャンプ誘致を検討中
 ● 文化プログラムの取組を検討中

<スポーツ祭東京2013の開催効果>

2013年に実施されたスポーツ祭東京の開催効果については、「スポーツの振興」を指摘するものが25件と最も多く、続いて「K：競技施設などの整備」19件、「H：スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成」14件、「F：地域のPR・情報発信」13件が上位を占めている。

図表 3 - 8 スポーツ祭東京 2013 の開催効果 (M.A.)



＜スポーツ資源＞

多摩・島しょ自治体アンケートに基づき、スポーツ資源を地域別に整理したものが図表3-9～12である。

図表3-9 地域別主なスポーツ資源①盛んなスポーツ・チーム (F.A.)

	盛んなスポーツ	トップアスリートチーム		
西多摩	マラソン カヌー バレーボール 少年野球 ソフトボール	オール福生(ソフトボール) オールあきる野女子ソフトボール		
南多摩	ネオテニス(八王子市発祥のニュースポーツ) サッカー 陸上競技 フットサル ラグビー ロープジャンプ 自転車ロードレース	FC町田ゼルビア コニカミノルタ陸上競技部 国士舘大学体育学部 若葉総合高校ソフトボール部男子	ASVベスカドーラ町田 日野高校野球部 多摩大学付属聖ヶ丘高校ダンスドリル部	キャノンイーグルス
北多摩西部	ミニテニス(立川市発祥) クリケット ハンドボール	青梅信用金庫(軟式野球) 武蔵村山市ハンドボールクラブ	スリーボンドファインケミカル(軟式野球) 武蔵村山市第五中学校(ハンドボール)	
北多摩南部	ラグビー スケートボード サッカー ドッチビー ビーチボール	亜細亜大学野球部 武蔵府中リトルリーグ(野球) FC東京(サッカー) 武蔵野東中学校陸上競技部 狛江第四中学校野球部	横河武蔵野アトラスターズ(ラグビー) 府中ハンドボールクラブ LIXILディアーズ(アメフト) 武蔵野東中学校バトン部 狛江セブン(バレーボール)	東京武蔵野シティFC 府中なでしこ(サッカー) 拓殖大学陸上部 日本郵政グループ陸上競技部
北多摩北部	バレーボール 卓球 サッカー 女子サッカー ミニバスケットボール ハンドボール 野球 ソフトボール バドミントン	青葉小学校ミニバスケットボール育成会女子チーム 東久留米ハンドボールクラブ チームケンズ(トライアスロン)	東村山第六中学校女子バスケットボール部 東久留米市西中学校ハンドボール部 たなしMAXjr.(バトミントン)	東久留米総合高校(サッカー)
島しょ	サーフィン バレーボール ボルタリング 軟式野球 柔剣道 バスケットボール サッカー フットサル バトミントン	三宅村小中学校(バドミントン・剣道)		

図表3-10 地域別主なスポーツ資源②主なスポーツ関係者のいる競技 (F.A.)

	主なスポーツ関係者(種目)		
西多摩	カヌー サッカー バレーボール	ソフトテニス チェアスキー ゴールボール	
南多摩	柔道 サッカー マラソン	シンクロナイズドスイミング 相撲 新体操	車いすマラソン プロボクシング
北多摩西部	卓球 カヌー マラソン		
北多摩南部	サッカー トライアスロン ポッチャ バレーボール	バスケットボール 陸上 シンクロナイズドスイミング 野球	卓球 ボクシング 競泳 セバタクロー
北多摩北部	バドミントン 野球 車いす陸上 パラリンピック競泳 体操	バレーボール アイスホッケー 空手 サッカー トランポリン	陸上 ハンドボール トライアスロン
島しょ	柔道 サッカー プロトレーナー		

図表3-11 地域別主なスポーツ資源③スポーツ施設 (F.A.)

スポーツ施設			
西多摩	青梅市御岳交流センター 福生野球場 羽村市スポーツセンター 都立秋留台公園 谷戸沢サッカー場	福生市中央体育館 あきる野市民球場 亜細亜大学テニス競技施設	福生市営プール(50m)
南多摩	エスフォルタアリーナ八王子 町田市立陸上競技場 日野市市民の森ふれあいホール 多摩市立陸上競技場 稲城市総合グラウンド	上柚木公園陸上競技場 町田市立総合体育館 多摩市立武道館 稲城中央公園野球場	町田市立室内プール 稲城市総合体育館
北多摩西部	立川公園野球場 昭和の森テニスコート 国分寺市市民スポーツセンター 東大和市ロンドみんなの体育館 武蔵村山市総合体育館	立川公園陸上競技場 クライミングウォール(昭島) 国分寺市市民ひかりスポーツセンター 東大和市ロンドテニスクエア	国分寺市民室内プール 東大和市ロンド上仲原野球場
北多摩南部	武蔵野総合体育館陸上競技場 三鷹中央防災公園 朝日サッカー場 味の素スタジアム 小金井市総合体育館 狛江市総合体育館	武蔵野市ストリートスポーツ広場 大沢総合グラウンド 府中市民球場 アミノバイタルフィールド	武蔵野市総合体育館 府中市総合体育館 調布市西競技場
北多摩北部	小平市民総合体育館 東村山市民スポーツセンター 清瀬内山運動公園サッカー場 西東京市総合体育館	西東京市向台運動場	西東京市スポーツセンター
島しょ	大島町陸上競技場 三宅村レクリエーションセンター(ボルダリング) 御蔵島開発総合センター 南原スポーツ公園サッカー場	南原スポーツ公園野球場	

図表3-12 地域別スポーツ資源④自然環境・公共空間 (F.A.)

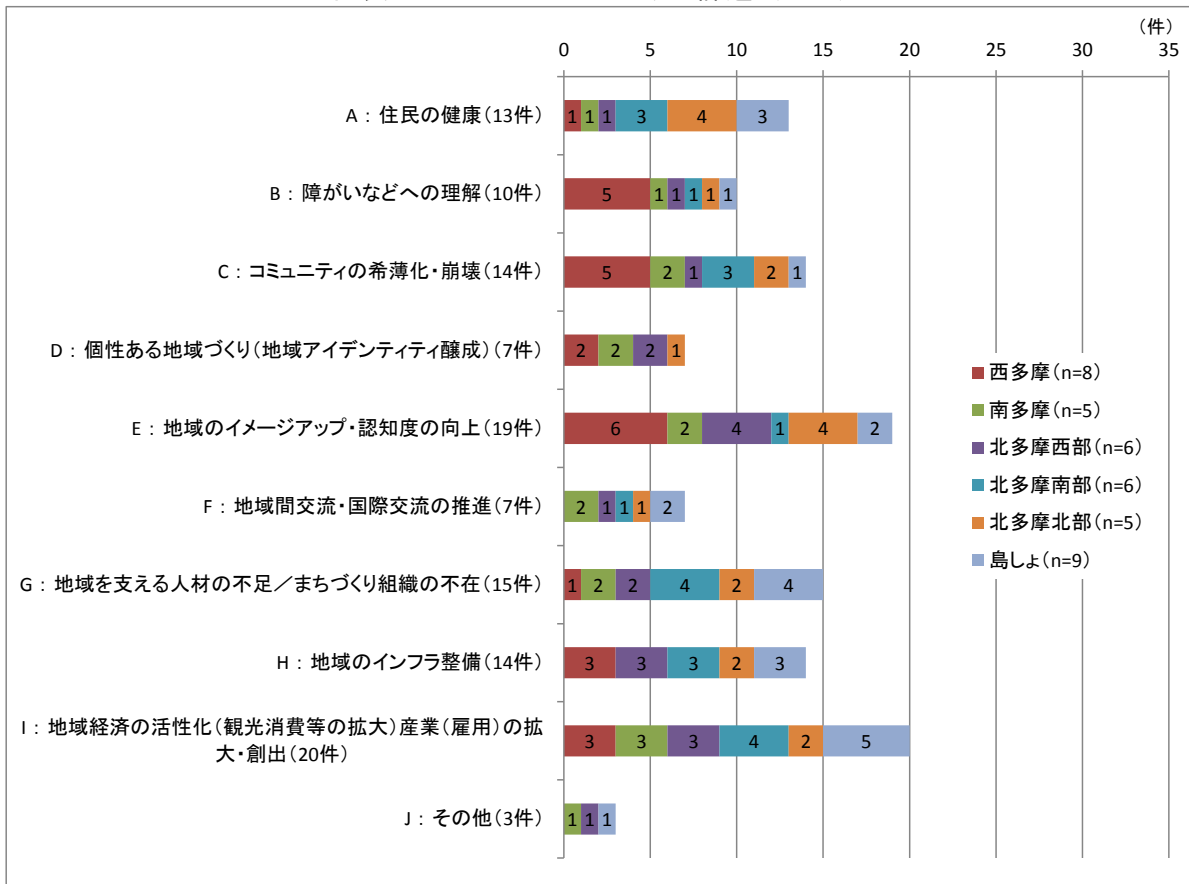
	山岳・森林	湖・河川・海浜・海洋	公共空間
西多摩	青梅市 トレイルラン 日の出町 ヒルクライム	青梅市 多摩川(カヌー・釣り・ラフティング)	青梅市 青梅マラソン大会
南多摩	八王子市 トレイルラン	八王子市 浅川(ロードレース、サイクリング)	八王子市 八王子市内(フォトロゲニング) 町田市 武相マラソン大会 稲城市 自転車ロードレース
北多摩西部	武蔵村山市 クロスカントリー 武蔵村山市 ウォーキング		立川市 マラソン 国立市 リレーマラソン
北多摩南部		調布市 多摩川(ウォーキング)	調布市 府中多摩川かぜのみち(駅伝・マラソン)
北多摩北部	東村山市 ウォーキング・散策(北山公園、八国山緑地)	東村山市 多摩湖自転車道(サイクリング)	小平市 野火止用水・玉川上(ウォーキング)
島しょ	小笠原村 ハイキング(父島・母島)	利島村 ヨット 小笠原村 ウィンドサーフィン(二見湾) 小笠原村 カヌー(父島・母島)	利島村 自転車ロードレース 利島村 ウルトラランニング 青ヶ島村 マラソン

<まちづくりの課題>

まちづくりの課題としては、「I：地域経済の活性化(観光消費の拡大)・産業(雇用)の拡大・創出」を指摘する自治体が20件と最も多い。続いて「F：地域のイメージアップ・知名度の向上」19件、「G：地域を支える人材の不足/街づくり組織の不在」15件、「C：コミュニティの希薄化・崩壊」14件、「H：地域のインフラ整備」14件、「A：住民の健康」13件、「B：障がいなどへの理解」10件となっている。

一番指摘の多い「I：地域経済の活性化(観光消費の拡大)・産業(雇用)の拡大・創出」は全地域で指摘されているのに対し、「E：地域のイメージアップ・知名度の向上」、「C：コミュニティの希薄化・崩壊」では西多摩地域からの指摘が若干多くなっている。また、「B：障がいなどへの理解」でも5件と西多摩地域からの指摘が多くなっている。

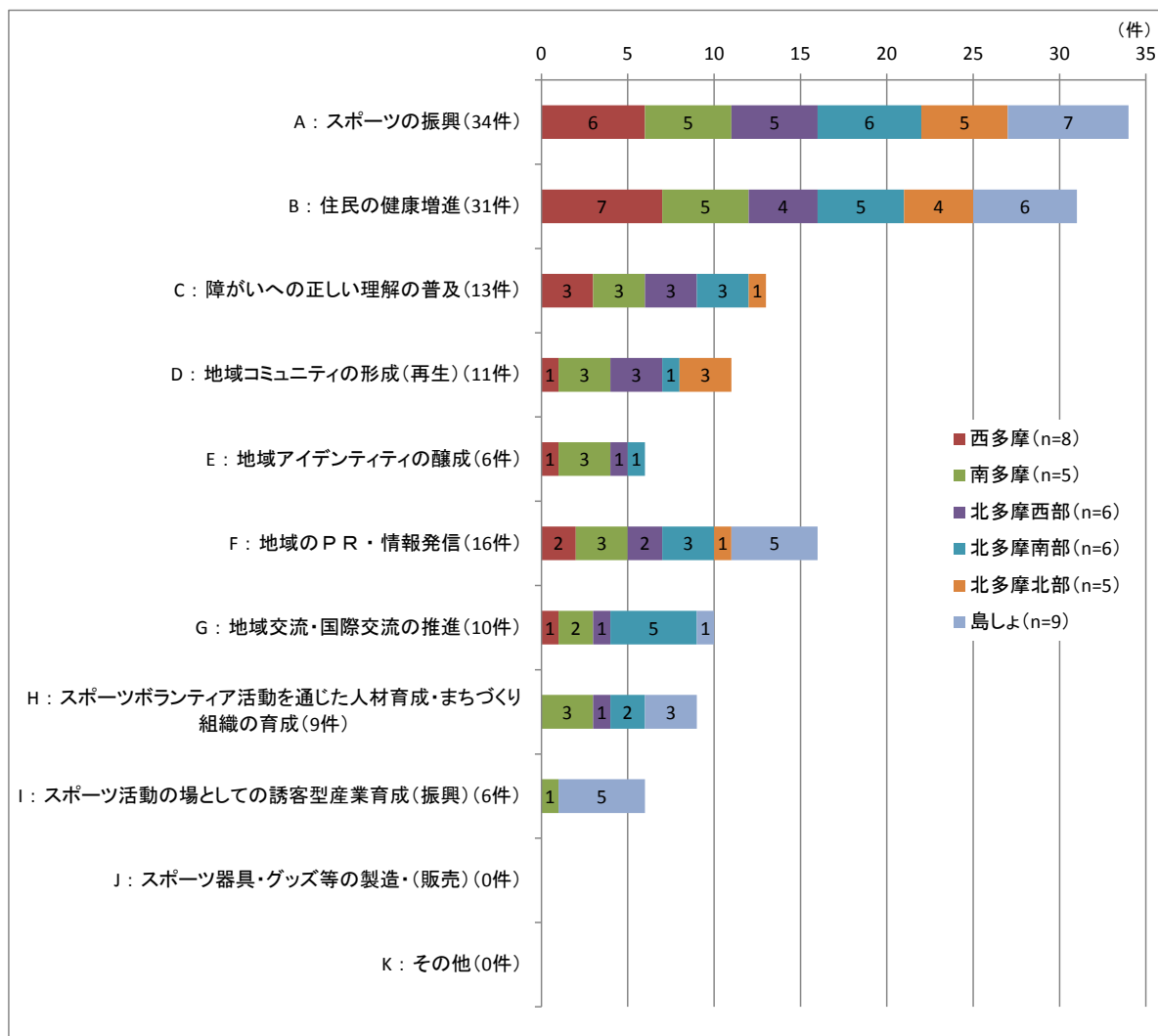
図表3-13 まちづくりの課題 (M.A.)



<スポーツの効用を活かしたまちづくり・地域活性化に対する今までの取組>

スポーツを活かして今まで取り組んできたまちづくり・地域活性化の分野は、「A：スポーツの振興」34件、「B：住民の健康増進」31件が他の項目を大きく引き離し上位を占めている。続いて「F：地域のPR・情報発信」16件、「C：障がいへの正しい理解の普及」13件、「D：地域コミュニティの形成（再生）」11件、「G：地域交流・国際交流の推進」10件となっている。地域別にみると、鳥しょ地域において、「F：地域のPR・情報発信」、「I：スポーツ活動の場としての誘客型産業の育成(振興)」が各5件と際立って高くなっている。また、北多摩南部地域の「G：地域交流・国際交流の推進」5件も際立って高い。

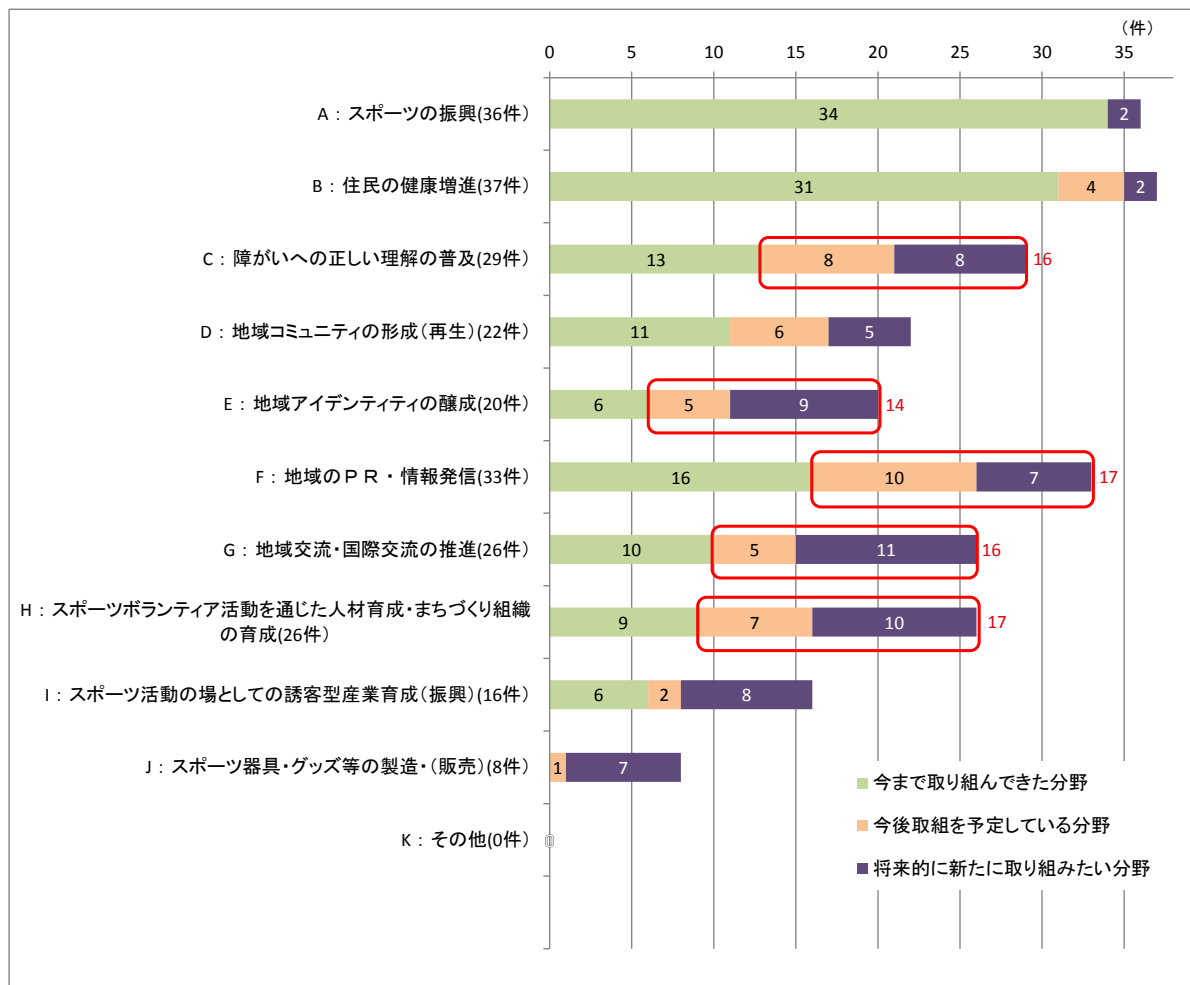
図表 3 - 14 スポーツの効用を活かした今までの取組 (M.A.)



<スポーツの効用を活かしたまちづくり・地域活性化に対する今後の取組意向>

スポーツを活かしたまちづくり・地域活性化に対する今後の取組意向について、今までの取組（図表3-14）を含めて整理したものが図表3-15である。「今後取組を予定している分野」と「将来的に新たに取り組みたい分野」をあわせた件数を「今後の取組意向」とする。「F：地域のPR・情報発信」及び「H：スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成」がそれぞれ17件、「C：障がいへの正しい理解の普及」及び「G：地域交流・国際交流の推進」がそれぞれ16件、「E：地域アイデンティティの醸成」が14件と続き、スポーツを活かした取組が様々な形に展開することが予測される。

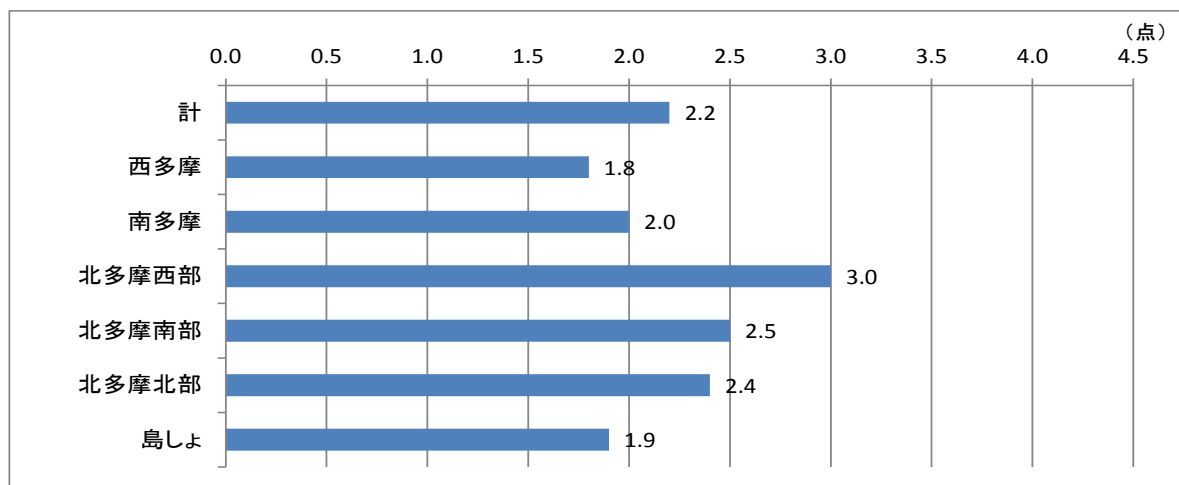
図表3-15 スポーツの効用を活かした取組意向（M.A.）（今までの取組含）



<スポーツコミッション(機能・組織)の認知度>

スポーツコミッションについての認知度は、北多摩西部地域が最も高く、西多摩地域、島しょ地域で低くなっている。D、Eを回答した自治体はほぼ見られなかった。

図表 3-16 スポーツコミッション(機能・組織)の認知度(S.A. 点数化評価)

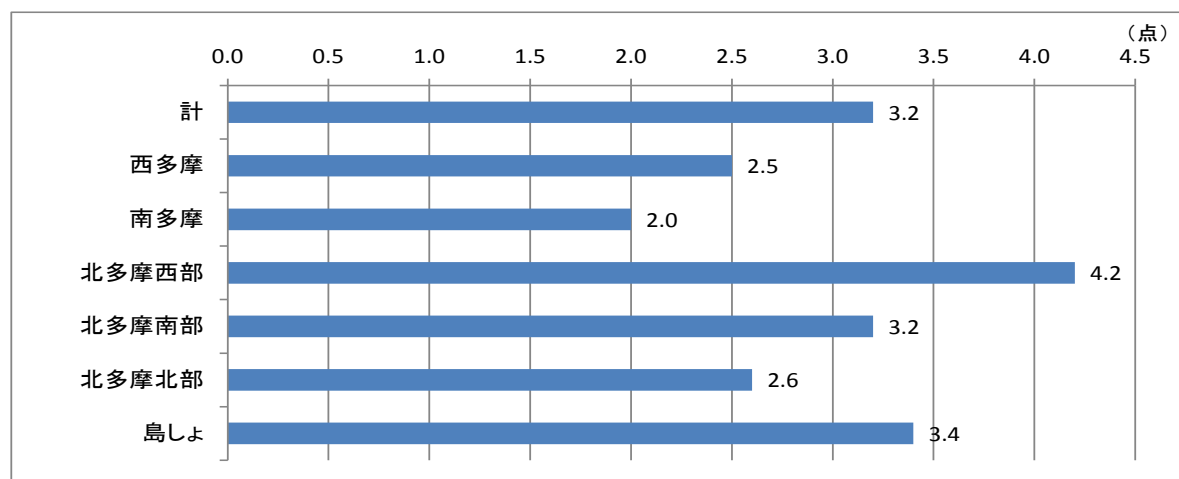


- A 知らなかった = 1点
- B 聞いたことがある程度 = 2点
- C 意味を知っている程度 = 3点
- D 組織づくりを検討している = 4点
- E 既にそれに関する組織ができている = 5点
- 無回答は除外

<スポーツコミッションの必要性>

スポーツコミッション的組織の必要性の認識度は、北多摩西部地域が最も高く、島しょ地域、北多摩南部地域が続いている。

図表 3-17 スポーツコミッションの必要性(S.A. 点数化評価)



- A 必要と感じる = 5点
- B どちらかと言えば必要と感じる = 4点
- C どちらとも言えない = 3点
- D どちらかといえば必要と感じない = 2点
- E 必要と感じない = 1点
- 無回答は除外

(2)自治体ヒアリング調査

①ヒアリング調査対象自治体の選定の経緯

ヒアリング調査対象は、図表3-19のとおり6自治体とした。その選定の経緯は次のとおりである。

まず、自治体アンケート調査におけるスポーツへの取組状況やスポーツコミッションへの関心度、人口規模及び都心からの距離を踏まえて以下の12自治体を候補を抽出した。

図表3-18 ヒアリング調査対象候補自治体のアンケート回答の特徴

候補自治体	アンケート回答の特徴
八王子市	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致を検討している。 ・スポーツコミッションについて必要と感じている。
武蔵野市	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致に取り組んでいる。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックにおいて、これまで交流があるルーマニアのホストタウンを検討している(アンケート後ホストタウン登録済)。
青梅市	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地誘致を検討している。 ・スポーツ祭東京をきっかけに青梅マラソン大会を継続して開催しており、市の知名度を上げている。 ・カヌー競技のメッカになりつつある。
府中市	<ul style="list-style-type: none"> ・府中市のフランチャイズチームと市民の交流が盛ん。 ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致に取り組んでいる。 ・スポーツコミッションについてどちらかというとも必要と感じている。
町田市	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致を検討している。 ・スポーツ祭東京2013をきっかけにボランティアが盛り上がっている。 ・スポーツコミッションについて必要と感じている。
小平市	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致の取組を活発に行なっている(リオオリンピックで交流がある国の音楽演奏等、PR活動の実施) ・スポーツコミッションについてどちらかというとも必要と感じている。
国分寺市	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツコミッションについて必要と感じている。
狛江市	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツコミッションの必要性を感じない。
清瀬市	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致を検討している。 ・スポーツ祭東京2013をきっかけに女子サッカーが盛り上がっている。
西東京市	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩六都りレーマラソン大会において、住民、学生のボランティア参加が盛ん。 ・2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致を検討中。 ・スポーツ祭東京2013をきっかけに、ボランティアが盛り上がっている。
日の出町	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致を亜細亜大学と連携して取り組んでいる。 ・スポーツコミッションについてどちらかというとも必要と感じている。
大島町	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツイベントでボランティアの参加が多い。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックキャンプ誘致を検討している。 ・スポーツコミッションについて必要と感じている。

最終的に、以上12自治体の中から、次のいずれかの条件を満たす図表3-19の6自治体をヒアリング調査対象自治体とした。

- ① 図表3-1 (P38)の地域区分から各1自治体
- ② スポーツの取組が盛ん・特徴的な自治体
- ③ スポーツコミッションを必要としている自治体

②ヒアリング調査結果

ヒアリングの結果、スポーツコミッションの必要性に対する考え方については次のように判明した。ヒアリングを行なった自治体については、いずれもスポーツ大会等でボランティアの参加の取組が見られた。ボランティア等を調整する組織としても、スポーツコミッションが求められている。

地域のスポーツを活かした地域の活性化やまちづくりのために、スポーツコミッションが必要であると考えている自治体は、清瀬市と大島町である。また、狛江市のように、市域が狭いという点から既に市内各種団体の連携が行われており、スポーツコミッションのような組織を改めて必要とは思わないという考えの自治体もあった。

図表3-19に、6自治体のヒアリング結果の要点をまとめる。

図表3-19 ヒアリング自治体のヒアリング結果の特徴

自治体名	ヒアリング結果の特徴・要点(スポーツコミッションへの考え方)
八王子市	<ul style="list-style-type: none"> ・市域や人口が大規模なため、中学校区単位ごとに総合型地域スポーツクラブがあり、そこが地域のスポーツに関する活動を行なっている。 ・市内で開催されるスポーツイベントについては、各種団体、地域団体、ボランティアが参加する土壌がある。しかし、その調整は市が担っているが、それをスポーツコミッションのような組織に担ってほしいと考えている。
青梅市	<ul style="list-style-type: none"> ・青梅マラソン大会が青梅市を有名にしている。そのため、青梅マラソン大会開催の際は、多くの各種団体、地域団体、ボランティアが参加する環境にある。また青梅マラソン大会により、市民の地域へのアイデンティティは高い。 ・青梅マラソン大会の効果をさらに活かすためにスポーツコミッションの必要性を感じているが、コアになる団体やキーパーソンが見つからない状況である。
国分寺市	<ul style="list-style-type: none"> ・現在策定中のスポーツ推進計画の中で、スポーツをテーマに各種団体を調整する組織の必要性が検討されている。 ・しかし、コアになる団体やキーパーソンが見つからない状況である。
狛江市	<ul style="list-style-type: none"> ・狛江市は、市内で開催するイベントは各種団体、地域団体が連携する機運になっている。これは市域が狭いため連携しやすい環境になると思われる。 ・このため、スポーツコミッションのような組織は改めて必要ないと感じている。
清瀬市	<ul style="list-style-type: none"> ・清瀬市は人口流出が課題になっている(特に若い女性の転出が多い)。このため女性に魅力があるまちづくりを進めるため、地域資源である女子サッカーを活用し、特に若い女性が魅力を感じ、清瀬市に住み続け、出産、子育てしようと思うまちづくりを推進する。(サッカーのまち清瀬推進事業) ・サッカーのまち清瀬推進事業を進めるためには、市内の各種団体及び隣接市の連携が必要なことから、スポーツコミッションのような組織が求められている。
大島町	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度に基本構想、基本計画、総合戦略において、スポーツを通じたまちづくり、地域の活性化を進めている。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックについてはキャンプ国誘致を検討している。このようなことからスポーツコミッションのような組織の必要性を感じている。 ・大島には、マラソンや駅伝のキャンプで訪れる大学等チーム(箱根駅伝チーム等)が多く、このようなチームを島民全体で受け入れる雰囲気がある。たとえば、練習で公道を走るの、住民が車の運転に気を付けている。

3-2. スポーツ活用型地域活性化のための地域別現状

自治体アンケート調査及び自治体ヒアリング調査を基に、各地域別にスポーツを活用した地域活性化のための現状を以下の視点から整理する。

- ①地域でのスポーツへの取組
- ②2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組
- ③スポーツ資源(種目・チーム・人・施設・環境)
- ④行政が捉える地域課題・スポーツを活かした取組

①西多摩地域(青梅市、福生市、羽村市、あきる野市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町)

西多摩地域は、自然環境に恵まれた山間地域を有する地域で、山間地特有の過疎高齢化の進む地域も多い。スポーツ資源の観点からは、多摩川水系の上流部の地域であるため、溪流の環境を利用したカヌー、ラフティング、釣り、山岳環境を利用したハイキング・トレイルラン・マラソン・ヒルクライム・ボルダリングなども盛んであり、観光誘客が推進されている。

図表 3 - 20 西多摩地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・住民の健康増進を目的とした取組が盛んな地域である。 ・青梅マラソン大会に代表されるマラソン等のイベントがある。 ・山岳環境を活かしたトレイルランやヒルクライムなども盛んである。 ・多摩川を活用したカヌー、釣り、ラフティング、バーベキューなどスポーツ・レクリエーション、レジャーが盛んである。
2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップに取り組んでいる自治体はない。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組は多く、キャンプ地として、青梅市・羽村市・日の出町、さらにあきる野市も誘致を検討している。また、羽村市は文化プログラムについて取組を進めている。
スポーツ資源(種目・チーム・人・施設・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・マラソン、カヌー、バレーボール、少年野球、ソフトボールなどが盛んな地域である。 ・ソフトボールの強豪チームがある。 ・カヌー、サッカー、バレーボール、チェアスキー、ゴールボール、ソフトテニス等のアスリートを輩出している。 ・青梅市御岳交流センター(カヌー競技会場)、福生野球場、福生市中央体育館、福生市営プール(50m)、羽村市スポーツセンター、都立秋留台公園、あきる野市民球場、谷戸沢サッカー場、亜細亜大学テニス競技施設等のスポーツ施設がある。 ・山間地域の大部分が、秩父多摩甲斐国立公園に指定されており、東京都・埼玉県・山梨県の境界にある雲取山は、東京都の最高峰として、日本百名山に選ばれている。登山コースは、山梨県丹波山村からのコース、東京都奥多摩町からのコース、埼玉県秩父市からのコース、縦走コースなど様々なコースで登ることができる。奥多摩三山といわれる三頭山、御前山、大岳山は多くの登山コースがあって人気の山である。三山をつなぐ縦走路もある。御岳山は、古くから山岳信仰の対象として親しまれ、山上には武蔵御嶽神社が祭られている。観光地としては、ロックガーデンをはじめ、日の出山からのハイキングコースも充実している。 ・多摩川の上流にあたる西多摩地域には、御岳渓谷、鳩ノ巣渓谷、秋川渓谷があり、カヌー、ラフティング、釣りやバーベキューをはじめとしたレジャー、スポーツが盛んである。 ・山岳、森林系ではトレイルラン、ヒルクライムのコース、河川系では多摩川でのカヌー、釣り、ラフティング、道路を活用した青梅マラソン大会などマラソン、駅伝などが実施されている。

行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、障がいなどへの理解、コミュニティの希薄化・崩壊、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域のインフラ整備、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出を挙げる自治体が多い。 ・地域のイメージアップ・知名度の向上、コミュニティの希薄化・崩壊、障がいなどへの理解をまちづくり課題として挙げる自治体が他地域に比べ多い。
スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進が多く、今後の取組として、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進を挙げる自治体が多い。 ・広域的なスポーツへの取組に実績がある。

②南多摩地域(八王子市、町田市、日野市、多摩市、稲城市)

南多摩地域は、八王子市・町田市などの大都市が含まれる地域でありながら、自然環境にも恵まれており、駅伝、トレイルラン、ロードレースが盛んな地域である。また、トップアスリートチームの活動拠点、ホームタウンともなっている。2019年ラグビーワールドカップ、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地としての取組も盛んな地域である。

図表 3 - 21 南多摩地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・全関東八王子夢街道駅伝競走大会、TOKYO八峰マウンテントレイル、多摩ロードレース大会などのロードレースイベントが盛んな地域である。 ・ロープジャンプ小学生大会など特色を持ったものもある。 ・東京ヴェルディ、FC町田ゼルビア、ASVペスカドーラ町田などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップへのキャンプ地として町田市、さらに八王子市も誘致を検討している。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへのキャンプ地として、八王子市・多摩市が誘致に取り組んでいる。また、日野市は文化プログラムについて取組を進めている。
スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・ネオテニス（八王子市発祥のニュースポーツ）、陸上競技、サッカー、フットサル、ラグビー、ロープジャンプ、自転車ロードレースなどが盛んな地域である。 ・FC町田ゼルビア、ASVペスカドーラ町田、キャノンイーグルス、コニカミノルタ陸上競技部、国士舘大学体育学部、日野高校野球部、多摩大学付属聖ヶ丘高校ダンスドリル部、若葉総合高校ソフトボール部男子とプロのアスリートチームから高校のクラブチームまで様々なチームがある。 ・柔道、サッカー、マラソン、マラソン、ボクシング、車いすマラソン、新体操、シンクロナイズドスイミング、相撲等のアスリートを輩出している。 ・エスフォルタアリーナ八王子、上柚木公園陸上競技場、町田市立陸上競技場、町田市立総合体育館、町田市立室内プール、日野市市民の森ふれあいホール、多摩市立陸上競技場、多摩市立武道館、稲城市総合グラウンド、稲城中央公園野球場、稲城市総合体育館等のスポーツ施設がある。 ・明治の森高尾国定公園、高尾陣場自然公園、多摩丘陵自然公園があり、山岳・森林系ではトレイルランのコース、河川系では浅川でのロードレース、サイクリング、道路を活用したマラソン、自転車ロードレースが実施されている。特色のあるものとしては、八王子市のフォトロゲイニングなどがある。 ・67の大学キャンパスが立地する特異な地域である。
行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、コミュニティの希薄化・崩壊、個性ある地域づくり（地域アイデンティティ醸成）、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域間交流・国際交流の推進、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出に分散している。

スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進とするものが全自治体で、他にも、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成(再生)、地域アイデンティティの醸成、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進、スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成などがある。今後の取組として、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進を挙げる自治体が多い。 ・課題として最も多くの自治体が挙げた「地域経済の活性化(観光消費等の拡大)産業(雇用)の拡大・創出」は取組としては少ない。
-------------	---

③北多摩西部地域(立川市、昭島市、国分寺市、国立市、東大和市、武蔵村山市)

北多摩西部地域は、マラソン、駅伝などロードレースイベントが盛んな地域である。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ誘致に積極的な自治体も多い地域である。

図表 3 - 22 北多摩西部地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・立川シティハーフマラソン、LINKくになち(マラソン)、多摩湖駅伝大会、東大和市ロードレース大会などロードレースイベントが盛んな地域である。 ・武蔵村山市少年・古希野球チーム親善大会、昭島市チャレンジデーなど特色を持ったものもある。 ・東京ヴェルディなどトップアスリートチームの活動拠点がある。
2019ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップに取り組んでいる自治体はない。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組は多く、キャンプ地として、立川市、さらに昭島市、東大和市が誘致を検討している。また、国分寺市、東大和市では文化プログラムについて取組を進めている。
スポーツ資源(種目・チーム・人・施設・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・ミニテニス(立川市発祥)、クリケット、ハンドボールなどが盛んな地域である。 ・青梅信用金庫(軟式野球)、スリーボンドファインケミカル(軟式野球)、武蔵村山市ハンドボールクラブ、武蔵村山市第五中学校(ハンドボール)などのチームがある。 ・卓球、カヌー、マラソン等のアスリートを輩出している。 ・立川公園野球場、立川公園陸上競技場、昭和の森テニスコート、クライミングウォール(昭島)、国分寺市市民スポーツセンター、国分寺市市民ひかりスポーツセンター、国分寺市民室内プール、東大和市 Rond みんなの体育館、東大和市 Rond テニススクエア、東大和市 Rond 上仲原野球場、武蔵村山市総合体育館等のスポーツ施設がある。 ・山岳・森林系ではクロスカントリー、ウォーキングのコース、道路を活用したマラソン、リレーマラソンなどが実施されている。
行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、個性ある地域づくり(地域アイデンティティ醸成)、地域のイメージアップ・認知度の向上、地域を支える人材の不足/まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化(観光消費等の拡大)産業(雇用)の拡大・創出を挙げる自治体が多い。
スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成(再生)、地域のPR・情報発信がある。今後の取組として、住民の健康増進、障がいへの正しい理解、地域アイデンティティの醸成、地域のPR・情報発信を挙げる自治体が多い。

④北多摩南部地域(武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市、小金井市、狛江市)

北多摩南部地域では、キャンプ誘致などの取組が盛んである。開催施設となる味の素スタジアムを拠点にプロチームやトップアスリートチームが多数活躍している。

図表 3 - 23 北多摩南部地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市民駅伝大会、みたかスポーツフェスティバル、ボールふれあいフェスタ、小金井市こども市民向けスポーツイベントが盛んな地域である。 ・東芝ブレイブルーパス・サントリーサンゴリアス、FC東京などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
2019ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップについては開催地である調布市があり、他地域と比べ取組が盛んである。キャンプ地として武蔵野市、府中市が取組を進めている。また、調布市・狛江市では文化プログラムの取組を進めている。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地として、武蔵野市、府中市、さらに、三鷹市も誘致を検討している。また、三鷹市、調布市、狛江市では文化プログラムについて取組を進めている。地域内には会場となっている味の素スタジアムが立地し、武蔵野の森総合スポーツ施設も整備が進められている。
スポーツ資源(種目・チーム・人・施設・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・ラグビー、サッカー、スケートボード、ドッチビー、ビーチボールなどが盛んな地域である。 ・FC東京、東京武蔵野シティFC、府中なでしこ(サッカー)、LIXILディアーズ(アメフト)、横河武蔵野アトラスターズ(ラグビー)、日本郵政グループ陸上競技部、狛江セブン(バレーボール)、府中ハンドボールクラブ、亜細亜大学野球部、拓殖大学陸上部、武蔵野東中学校陸上競技部 武蔵野中学校バトン部、狛江第四中学校野球部、武蔵府中リトルリーグ(野球)とプロチームから少年スポーツまで様々なチームがある。 ・サッカー、バスケットボール、バレーボール、野球、卓球、競泳、陸上、シンクロナイズドスイミング、トライアスロン、セパタクロー、ボクシング、ポッチャ等のアスリートを輩出している。 ・味の素スタジアム、武蔵野総合体育館陸上競技場、武蔵野市ストリートスポーツ広場、武蔵野市総合体育館、三鷹中央防災公園、大沢総合グラウンド、朝日サッカー場、府中市民球場、府中市総合体育館、アミノバイタルフィールド、調布市西競技場、小金井市総合体育館、狛江市総合体育館等のスポーツ施設がある。 ・河川系では多摩川のウォーキング、野火止用水・玉川上水のウォーキング、駅伝・マラソンなどが実施されている。
行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、住民の健康、コミュニティの希薄化・崩壊、地域を支える人材の不足/まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化(観光消費等の拡大)産業(雇用)の拡大・創出を挙げる自治体が多い。
スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、障がいへの正しい理解の普及、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進に取り組んでいる。今後の取組として、障がいへの正しい理解の普及、地域コミュニティの形成(再生)、地域のPR・情報発信、地域交流・国際交流の推進、スポーツボランティア活動を通じた人材育成・まちづくり組織の育成を挙げる自治体が多い。

⑤北多摩北部地域(小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市)

北多摩北部地域は、この地域を構成する5市による多摩六都フェアスポーツ大会など広域行政による取組に特色がある。また、2020東京オリパラへのキャンプ誘致に積極的な取組の意向を示している。

図表3-24 北多摩北部地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市、東村山市、清瀬市、東久留米市、西東京市による多摩六都フェアスポーツ大会など広域行政による住民向け取組に特色がある。 ・FC東京などトップアスリートチームの活動拠点として、ファンサービスなどの取組も盛んである。
2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップのキャンプ地として西東京市が誘致を検討している。また、東村山市では文化プログラムの取組を進めている。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへのキャンプ地として、小平市、さらに、東村山市、清瀬市、西東京市が誘致を検討している。また、東村山市で文化プログラムについて取組を進めている。
スポーツ資源(種目・チーム・人・施設・環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・バレーボール、サッカー、女子サッカー、野球、ソフトボール、ミニバスケットボール、ハンドボール、卓球、バドミントンなどが盛んな地域である。 ・チームケنز(トライアスロン)、たなしMAXjr.(バドミントン)、東久留米ハンドボールクラブ、東久留米総合高校(サッカー)、東久留米市西中学校ハンドボール部、青葉小学校ミニバスケットボール育成会女子チームなどのチームがある。 ・サッカー、野球、バレーボール、ハンドボール、バドミントン、アイスホッケー、陸上、空手、体操、トランポリン、トライアスロン、車いす陸上、パラリンピック競泳等のアスリートを輩出している。 ・小平市民総合体育館、東村山市民スポーツセンター、清瀬内山運動公園サッカー場、西東京市総合体育館、西東京市向台運動場、西東京市スポーツセンター等のスポーツ施設がある。 ・山岳・森林系ではウォーキング・散策(北山公園、八国山緑地)、河川系では多摩湖サイクリング(自転車道)などが実施されている。
行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、住民の健康、地域のイメージアップ・認知度の向上を挙げる自治体がきわめて多く、コミュニティの希薄化・崩壊、地域を支える人材の不足/まちづくり組織の不在、地域のインフラ整備、地域経済の活性化(観光消費等の拡大)産業(雇用)の拡大・創出が続いている。
スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、地域コミュニティの形成(再生)がある。今後の取組として、障がいへの正しい理解の普及といった取組を挙げる自治体が多い。 ・広域行政による取組に実績がある。

⑥島しょ部地域（大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村小笠原村）

島しょ地域は、海洋におけるマリレジャー・スポーツだけでなく、八丈富士、三原山など山岳系のレジャースポーツの環境にも恵まれている。今後のスポーツの活かし方として、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出への期待が強い地域である。

図表 3 - 25 島しょ地域の現状

	地域の現状
地域でのスポーツへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆大島トライアスロン大会、新島トライアスロン大会、式根島マラソン大会、新島アクアスロン大会、新島オープンウォータースイミング大会、新島東京都知事杯サーフィン大会、神津島アクアスロン大会など水泳とマラソン、自転車を組み合わせたスポーツが盛んな地域である。 ・ジオパークを楽しもう（大島）、スポーツ合宿誘致（八丈島）、OgasawaRun（オガサワラン）など地域の特性を活かし、観光誘客型の取組が推進されている。
2019年ラグビーワールドカップ及び2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組	<ul style="list-style-type: none"> ・2019年ラグビーワールドカップのキャンプ誘致や文化プログラムに取り組んでいる自治体はない。 ・2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組は多く、キャンプ地として大島町、さらに新島村、八丈町が誘致を検討している。また、神津島村では文化プログラムについて取組を進めている。
スポーツ資源（種目・チーム・人・施設・環境）	<ul style="list-style-type: none"> ・サーフィン、バスケットボール、サッカー、フットサル、バトミントン、バレーボール、ボルタリング、軟式野球、柔剣道などが盛んな地域である。 ・トップアスリートチームは少ない。 ・柔道、サッカー、プロトレーナー等を輩出している。 ・大島町陸上競技場、三宅村レクリエーションセンター（ボルダリング）、御蔵島開発総合センター、南原スポーツ公園サッカー場、南原スポーツ公園野球場等のスポーツ施設がある。 ・島しょ部として、海洋におけるマリレジャー・スポーツだけでなく、八丈富士、三原山など山岳系のレジャースポーツの環境にも恵まれている。 ・秋ノ浜遊泳場、弘法浜遊泳場、弘法浜遊泳場、前浜海水浴場、前浜海水浴場、間々下海水浴場、羽伏浦海岸、石白川海水浴場、泊海水浴場、前浜海水浴場、底土海水浴場、横間海水浴場などがある。 ・山岳系ではハイキング（父島・母島）、海洋系ではヨット（利島村）、ウィンドサーフィン（二見湾）、カヌー（父島・母島）、道路を活用した自転車ロードレース（利島村）、ウルトラランニング（利島村）、マラソン（青ヶ島村）などが実施されている。
行政が捉える地域課題	<ul style="list-style-type: none"> ・行政が捉える地域課題では、地域経済の活性化（観光消費等の拡大）産業（雇用）の拡大・創出が最も多く、次いで、地域を支える人材の不足／まちづくり組織の不在を挙げる自治体が多い。
スポーツを活かした取組	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツを活かした取組では、スポーツの振興、住民の健康増進、地域のPR・情報発信、スポーツ活動の場としての誘客型産業育成（振興）に取り組んでいる。今後の取組意向では、様々な分野に分散している。

3-3. スポーツ活用型地域活性化に向けたまとめ

多摩・島しょ地域自治体は、全国の地方部ほど切迫してスポーツを地域の活性化に活かそうとする状況にはないと言える。地方部の先進事例の多くが、人口減少や過疎高齢化など様々な大きな課題解決のためにスポーツの活用に取り組んでおり、多摩・島しょ地域との違いを読み取ることができる。また、多摩・島しょ地域は、その域内でも地域ごとに異なる特性を持っており、それに対応したスポーツの活かし方を探る必要がある。

このような多摩・島しょ地域の特性を踏まえ、地域の特性にあわせてスポーツを活用した地域活性化に向けた視点を整理する。

①異なる地域特性への対応

多摩・島しょ地域は39自治体で構成されているが区部隣接地域、離島、山間部など立地条件や都市規模などが大きく異なる。そのため、スポーツ活用に対する課題も大きく異なっており、これに伴いスポーツ活用の方法もそれぞれにあわせて考える必要がある。

i. 人口規模等の違い

人口規模では50万人を超える八王子市から数百人の島しょ部の自治体まで、大小に著しい違いがある。

特に都市規模の小さな自治体では、スポーツコミッションに限らず、新たな組織を作るとは難しい。これら小規模な自治体ほど、過疎高齢化が著しく、抱える課題も深刻であり、スポーツを活用した地域活性化を進めるべきであるが、財政的にも人材確保の面からも単独での取組は難しく、周辺自治体との連携など自治体の枠組みを超えた対応が必要である。

ii. 自然環境の違い

多摩・島しょ地域は、自然環境を含めた地理的条件に大きな違いがあり、これにスポーツの活用方法も大きく影響される。

例えば、自然環境に恵まれた島しょ地域や山間地域を抱える西多摩地域は、人口の過疎高齢化、地域経済を支える産業づくり、雇用の確保など深刻な課題を抱える中で、自然環境を活かしたスポーツツーリズムを取り入れやすい環境にある。

iii. 都市構造の違い

多摩・島しょ地域は、i iiのような要因により多様な住民の層が存在し、課題も地域によって様々である。南多摩地域、北多摩地域などの都市部は、過疎高齢化のような深刻な課題は比較的少ないものの、地域アイデンティティの脆弱さや新住民の増加による人間関係の希薄化、コミュニティ形成、住民の健康増進などの課題を抱えている。

②地域活性化の手段としての「スポーツ」活用の視点

今回の自治体アンケート調査・ヒアリング調査では、多摩・島しょ地域において、スポーツを活用したまちづくりや地域の活性化にかかわる取組が多数行われていることが明らかとなった。

一方、アンケート調査からスポーツの取組目的は、「スポーツの振興」や「住民の健康増進」といった分野に重点が置かれているが、大規模なスポーツイベントでは国際交流の促進や地域の情報発信、スポーツ施設などのインフラ整備などの効果が認識されている。

先進事例調査などの地域では、国際交流や情報発信はもとより、スポーツを観光に結び付けるスポーツツーリズムの推進として、それぞれの組織のスポーツイベントなどへの取組も多くみられ、スポーツに対する多摩・島しょ地域との認識の違いがある。多摩・島しょ地域においても、スポーツが様々な地域の活性化に結び付くことを理解し、積極的に利用する視点を取り入れる必要がある。

③2020年東京オリンピック・パラリンピックという契機

多摩・島しょ地域自治体の6割が2020年東京オリンピック・パラリンピックへの取組を推進、又は検討している。スポーツの持つ様々な地域活性化効果を踏まえた上で、2020年東京オリンピック・パラリンピック、2019年ラグビーワールドカップに取り組むことで、様々な効果を引き出すことが可能となる。レガシーを検討するなかで、スポーツの活用を行政内で横断的に取り組むものへ転換することが必要である。

